

非線形電磁気学と波動科学について

(株)日本理化学

目次

- 1．非線形電磁気学
- 2．一般相対性理論（非線形波動理論）と量子力学（線形波動力学）
- 3．拡張された一般相対性理論
- 4．B 3 磁場を媒体とした波動科学
- 5．波動科学の将来

まえがき

倉田科学ならびに倉田技術は自然の本質に根ざすものです。

自然の本質は光の干渉により生じる特異なスピン磁気に基づく波動性であり、倉田技術はスピン磁気の波動性にどのように働きかけるかをコントロールして成立します。

1．非線形電磁気学

逆ファラデー効果という現象が実験物理の分野で確認されています。光磁気効果のことであり、円偏向した光（電磁波）から静磁場が得られる現象です。

1990年代からこの現象を説明するために、物理光学の最先端で電磁気学の見直しが行われており、イギリスのMyron W. Evansは現在の線形電磁気学を最小限に非線形化して逆ファラデー効果の発現を証明しました。

すなわち、同じ周波数を持つ互いに逆方向に回転する円偏向の光（電磁波）が干渉した場合に、光（電磁波）の進行方向に時間的に変動しない、いわゆる静磁場（B 3 磁場）が生じます。

また、このB 3 磁場が波動力学におけるスピン量子であることを理論的に証明しました。B 3 磁場の時間変化は電場を生じません。

非線形電磁気理論は電磁気の位相情報が扱えることから、アハラーノフ・ボーム効果（いわゆるAB効果）や光ジャイロの基本原理であるサーニャック効果その他の物理現象が古典論の範囲で算出できます。

2. 一般相対性理論（非線形波動理論）と量子力学（線形波動力学）

Myron W. Evansはまた、非線形電磁気学が物理空間の回転に關与することから、アインシュタインがやり残した一般相対性理論の電磁気部分であることを理論的な手法を使って示唆しています。

一方、アメリカの著名な物理学者であるMendel Sachsは1960年代からアインシュタインの等価原理に用いられている加速度が空間の平行移動に基づくものであり、空間の回転移動に基づく等価原理が欠落していることを指摘して、回転加速度の等価原理をも取りこんだ拡張された一般相対性理論を作りました。

Sachsはこの拡張された一般相対性理論が非線形の波動理論であることから、この理論を線形化することで、従来の波動力学が得られることを証明しました。

Sachsはこの理論を素粒子理論に適用することで、量子論以外では計算できなかった水素原子スペクトルの微小なラムシフトを正確に算出しています。

その他、この理論からは銀河の回転が出てきますし、物理空間の非対称性が結論され、物理学の種々の分野に適用して測定結果を説明する斬新な結論を導き出しています。

倉田大嗣は1960年の19歳の頃、アインシュタイン理論のこの欠点、すなわちスピンの欠落していることに気づき、その後の研究を経てスピン磁気と波動性が物理空間ならびに物質の本質であるとの結論に達しました。

3. 拡張された一般相対性理論

一般相対性理論はリーマン幾何学を援用して4次元の幾何学として物理現象を説明しています。

アインシュタインは無意識か意図的か判然としませんが、等価原理に平行移動の加速度のみを取りこんで理論を仕上げています。

数学的には4次元時空を一般的に表すには $4 \times 4 = 16$ 個の変数が必要ですが、このうちの対称成分（平行移動加速度成分）である10個のみを使っています。

Sachsの理論では残る6個の反対称成分（回転移動加速度成分）を加えて、全16個を使って理論構成しています。

リーマン幾何学では全20個の変数が必要です。

倉田は全20個の変数を考慮した理論構築が必要と言っています。

4次元時空のリーマン幾何学は幾何学としての解釈のほか、完全流体の振る舞いを表す手段としての解釈ができます。[*]

4次元の完全流体の動きを表現するには渦を表す反対称成分6個と、流れを表す対称成分が14個必要です。対称成分のうち対角成分はエネルギー流の湧き出しと吸い込みからなりますが、通常は湧き出しと吸い込みを区別せずその差分の4成分で表現しているために14個が10個となっています。

このように解釈すると非線形の波動性をもつ4次元時空の中での完全流体的なものが物理空間と物質を構成しているとの物理観が成立します。

倉田技術はスピン磁気であるB3磁場を仲立ちとし、空間や物質の波動性を利用して量子現象をコントロールしています。

[*]参考：http://modelingnts.la.asu.edu/pdf/NEW_GRAVITY.pdf

4 . B 3 磁場の波動性を媒体とした波動科学

Myron W. EvansやMendel SachsはB 3 磁場を仲立ちとして量子現象のほか重力現象を電磁氣的にコントロールできる可能性についても論じています。

倉田技術ではB 3 磁場と物質イオンのスピン磁気の波動性を利用して量子的な物理現象と化学現象をコントロールしています。

炭化水素化合物の化学結合を電磁氣的に低エネルギーで切るとは物質の波動性に基づく固有振動を利用しています。原子に分解した炭化水素化合物を、任意の炭化水素に組み替えるには、金属イオンの持つスピン磁気に基づく幾何学性を利用したナノテク鑄型を利用しています。

この鑄型にはスピン磁気により情報を記憶する性質もあります。

一般相対性理論は宇宙全体を一つのものとしてとらえ、その中にある個々のものはすべて宇宙全体とつながりを持つ、宇宙の一部だと考えます。

その意味で、統一場としての物質場はあらゆる物に浸透し、孤立したものは存在しないことが分かります。

孤立した系がない事は、限られた空間の中でのエネルギー保存則が成立しない事を意味します。

また、全宇宙の波動性は常に躍動している宇宙を示しており、エネルギーの流れが途絶えない事を示しています。

5 . 波動科学の将来

1860年にマックスウェルは師のファラデーの電磁流体論を基に今日知られるマックスウェルの方程式を造りました。しかし、実用的なモータの出現には1900年を待たなければなりませんでした。

Mendel SachsやMyron W. Evansは波動科学におけるマックスウェルと言えます。

一方、倉田大嗣はマックスウェルとしての業績だけでなく、電磁気の応用装置を作ったエジソンやニコラ・テスラを兼ね備えた業績を既にあげております。

したがって、

波動科学は非線形電磁気学の発展をもとにしたスピン磁気であるB 3 磁場のコントロールと、物質・粒子の持つスピン磁気の波動性をコントロールする手段（イオン科学）を得ることによって発展していくと考えられます。

倉田大嗣は40年以上も前に波動科学の端緒をつかみ、長年かけ本質を解明して、一部分を環境やエネルギーに関するプラント技術までに仕上げました。

倉田科学と倉田技術を早急に普及させて、環境問題とエネルギー問題の本質的な解決を図りたいと考えます。

リンク

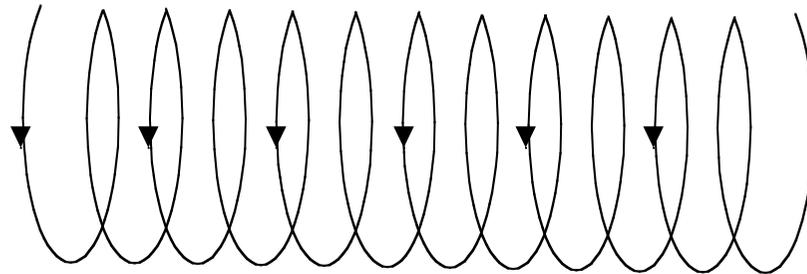
Myron W. Evans:<http://www.aias.us/>

Mendel Sachs:<http://www.compukol.com/mendel>

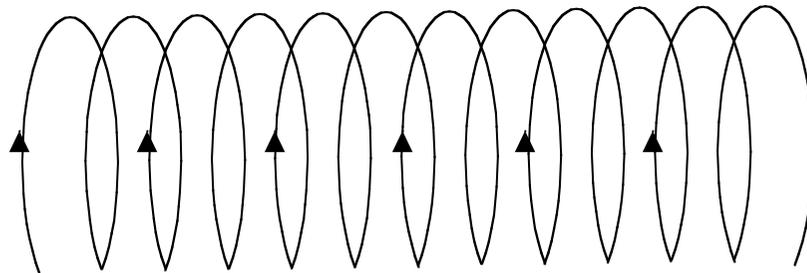
DOE:<http://www.ott.doe.gov/electromagnetic>

光の干渉から特異なスピン磁気が生まれる

右回り円偏向の光(電磁波)



静磁場 (B 3 磁場)
(スピン量子担体)



左回り円偏向の光(電磁波)

一般相対性理論（非線形波動理論）と量子力学（線形波動力学）

4次元時空：リーマン幾何学（20個の変数） $4 \times 4 = 16$ 個の変数で表現

$$\begin{pmatrix} a^{00} & a^{10} & a^{20} & a^{30} \\ a^{01} & a^{11} & a^{21} & a^{31} \\ a^{02} & a^{12} & a^{22} & a^{32} \\ a^{03} & a^{13} & a^{23} & a^{33} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 & b^{10} & b^{20} & b^{30} \\ b^{01} & 0 & b^{21} & b^{31} \\ b^{02} & b^{12} & 0 & b^{32} \\ b^{03} & b^{13} & b^{23} & 0 \end{pmatrix}$$

$$a^{ij} = a^{ji}$$

$$b^{ij} = -b^{ji}$$

対称成分(平行移動・流れ) 反対称成分(回転移動・渦)

重力場

非線形電磁場

アインシュタイン理論

Myron Evans理論

線形化：Newton方程式

線形化：Maxwell方程式

非対称・非線形
倉田理論 Sachs理論
波動理論

線形化

線形波動理論
(量子力学)

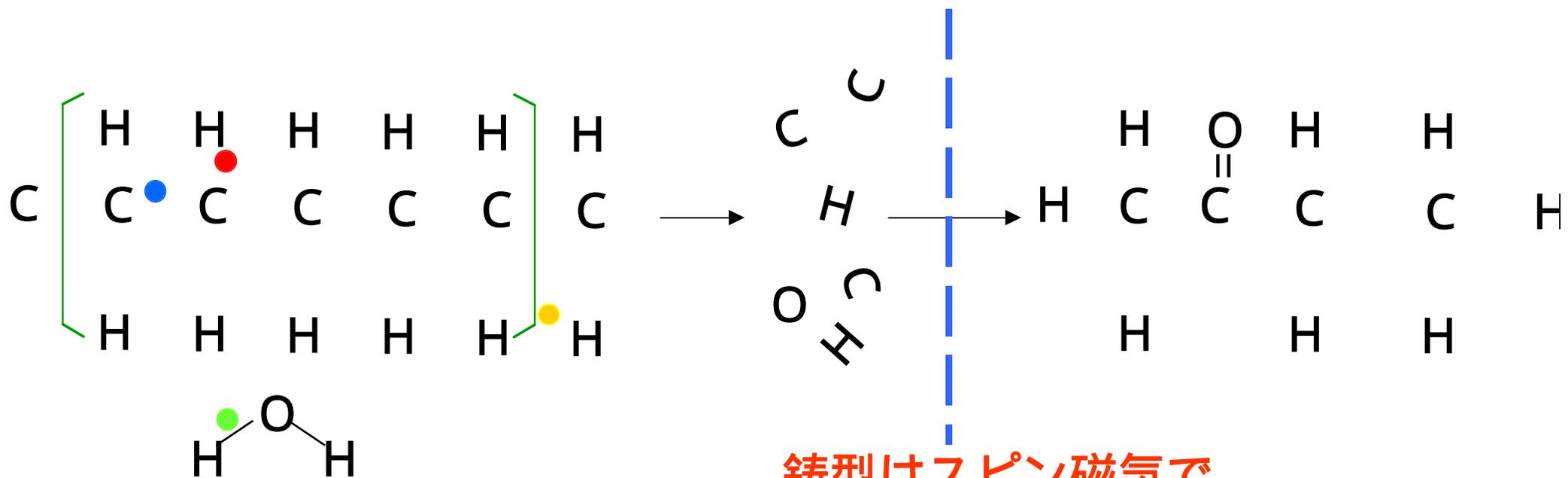
スピン磁気 (B 3 磁場) を媒体とした波動科学

イオン科学 :

$$E = h \nu \quad (E : \text{イオン化エネルギー})$$

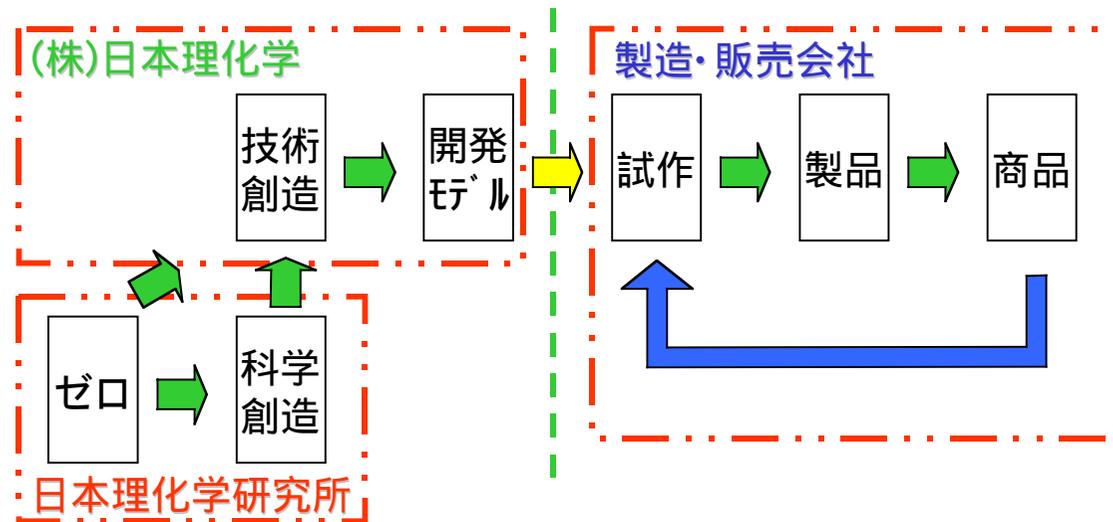
$$= h \cdot C / \lambda \quad (C : \text{光速})$$

金属触媒によるスピン
磁気のナノテク鑄型



鑄型はスピン磁気で
情報を記憶できる

倉田科学・倉田技術のまとめ



倉田科学・倉田技術

アインシュタインの一般相対性理論 + スピン場 (非線形電磁場)
統一理論 (量子構造を内包し、Mendel Sachs の理論と同質)

量子電磁気・重力現象ならびに量子物性を実験科学的に解明
炭化水素や水などの低エネルギー分解と合成
水の蒸発潜熱の低減などを可能にした科学と応用技術

などを実現した。

実験により体系化された成果として、

量子化学	分解の化学、複製の化学	先進の燃焼理論
	キラール制御	
量子物性	ナノ基礎理論、触媒設計、超伝導、水の物性、諸物性	
量子電磁気	重力制御、慣性の制御、スピン波、B 3 磁場、	
・重力	エネルギー変換	
核・素粒子	原子・素粒子の変換	電子・中性子の自在な操作
物理		

応用技術ならびに関連する技術

炭化水素化合物の任意の分解と生成
プラスチックの油化還元 (灯油のみへの油化)
原油の選択的精製 (ガソリンのみの製造が可能)
天然ガスの液化と再ガス化
PCBの分解処理 (分解して塩化カルシウムで回収)
HHO燃焼ならびに水燃焼
水の熱解離を180℃まで下げることに成功
水エンジン・水ロケット・水燃焼炉
水燃焼 (水素酸素燃焼) の応用として可能
水の改質による多機能化
蒸発潜熱低減水・超界面活性化水・殺菌水
常温超伝導
ある種の合金で可能
低温精錬 (ファイブナインの鉄)
500℃で鉄の精錬が可能となった

市場化が可能なKURATA技術

日本理化学

項目	技術の要点	適用先
資源化装置	炭化水素化合物の油化・無害化	原油の単一油種への精製 GTL（天然ガスの燃料油化） ATL（超重質油の燃料油化） 廃プラスチックの油化還元 シュレッダ-ダストの処理・油化還元 PCB処理
HHO技術	励起水を混入した油の燃焼	湯沸し、原動機ボイラー 熱処理炉 ディーゼルエンジン ガスタービン
低I値 [°] -炎の高I値 [°] -化	青色炎短波長の赤外・遠赤外線化	ガス燃焼 HHO燃焼
KRTバイオ燃料	理想的なディーゼル燃料 （還元油+廃天ぷら油+ ）	ディーゼル車輛 漁船・農機
KURATA水技術	活性水素水（SUNすい）	美容（化粧水、髪、シャワー、風呂） 健康（アトピー、花粉症、傷火傷）
	界面活性水	界面活性・洗浄・錆止め
	殺菌水	食品など
低濃度毒物の分解処理	触媒を使ったイオン分解	大量のダイオキシン除染など

市場化が可能なKURATA技術

KURATAの資源化装置は元来、原油を任意の単一油種に精製する技術が基本になっています。基本的に炭素と水素からなる化合物があれば、それを一度バラバラの原子の状態にしたのち、テンプレート触媒で任意の単一油種に分子を組み替えることができます。反応の前後で原子の数に過不足がある場合は、水素は水を、炭素は重質油などを加えることで調整します。水を加えると酸素が反応に加わり、出来上がった油の中に酸素が組み込まれて酸素含有燃料となり燃料油の完全燃焼が可能となります。KURATA式GTLで出来た軽油は酸素含有燃料であり完全燃焼しやすくなります。

PCBなどは一度原子に分解したときに塩素が遊離します。この塩素をKURATAカルシウムで中和処理しますと、PCBが全く安全な油に変わります。KURATA式ではベンゼン環も低エネルギーで分解しますので精製された油は直鎖の炭化水素です。

塩素を含むベンゼン環化合物の無害化は塩素のみを外してやることで可能であり、それは塩素のみをスピン波動で励起することで可能になります。これがイオン科学によるPCBやダイオキシンの無害化です。ダイオキシンの汚染された土壌を水で洗って、その水をイオン分解処理することで大量のダイオキシンの除染が可能になります。

KURATAの水技術はさまざまなエネルギーをスピン波動エネルギーに変えることで水を励起して、水のクラスターを1分子に近いものにした上で水の一部を分解し、活性水素と陰イオンが豊富な水を作ることが出来ます。水の分解の程度により、生体への適用や工業への適用が区別されます。水の180°での分解燃焼はこの技術の究極にあります。

HHO技術はこのKURATA水を使うことで乳化剤なしにいわゆるエマルジョン燃焼が可能になりました。さらにKURATA水はクラスターが1分子に近いことから蒸発潜熱がほとんどありませんので、潜熱による熱損失がありません。さらに、炎の温度が1200°付近になると水の分解が一部生じて部分的な水燃焼が起きます。

都市ガスなどのメタン・エタンガス燃焼は低温炎であり、低エネルギーの青色短波長を主に発する熱効率の低いものです。青色短波長を赤外・遠赤外長波長に変換する技術により熱効率を大幅に向上させることが出来ます。

KRTバイオ燃料はプラスチックの還元油と植物油（廃天プラ油が使える）+ の混合のみで製造可能な黒煙を発生しない、またディーゼル車の馬力がガソリン車並になる理想的なディーゼル燃料です。

KURATA技術はスピン磁気（B3磁場）とイオン科学を駆使するKURATA科学に基づくものであり、広がりは無限です。

KURATA技術を使った資源化装置・HHO燃焼装置プラントのパフレットその他を必要な方は下記までご連絡ください。

（株）日本理化学

〒659-0092兵庫県芦屋市大原町7-3西本ビル204 Tel:0797-31-5020 Fax:0797-23-4685 Email:nihonrikagaku01@h9.dion.ne.jp